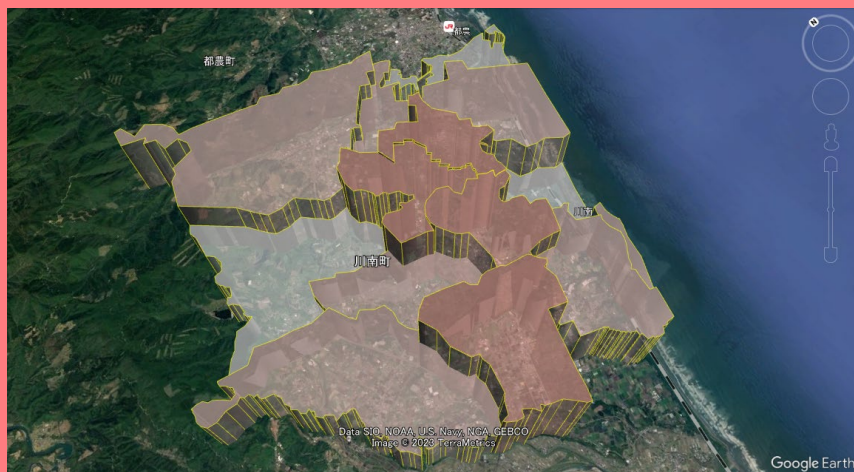


投票区割りの適正化

～自治会だよりの運用からの脱却～

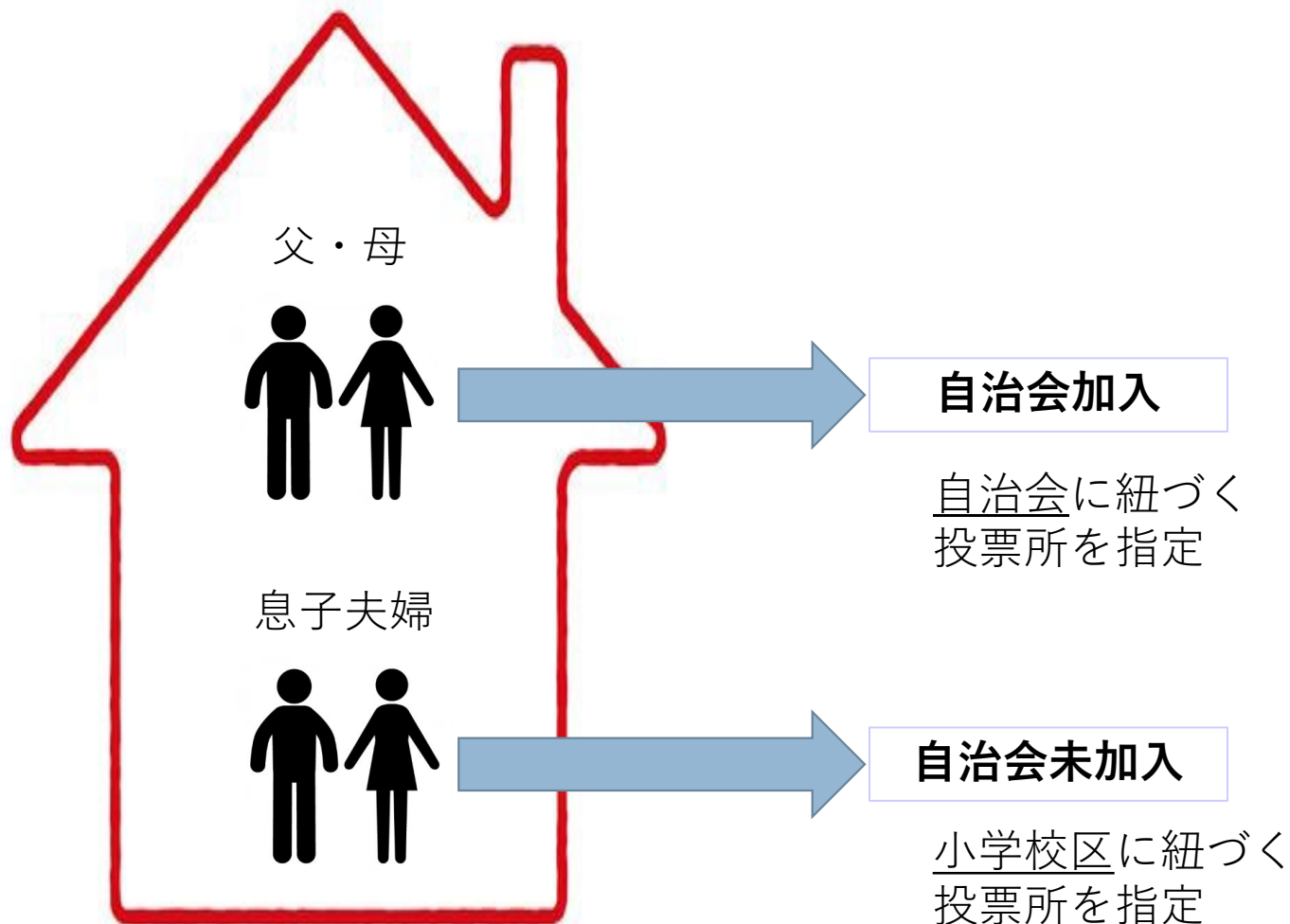


Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO Image ©2023
TerraMetrics Google Earth を使用

宮崎県川南町

1.問題提起①

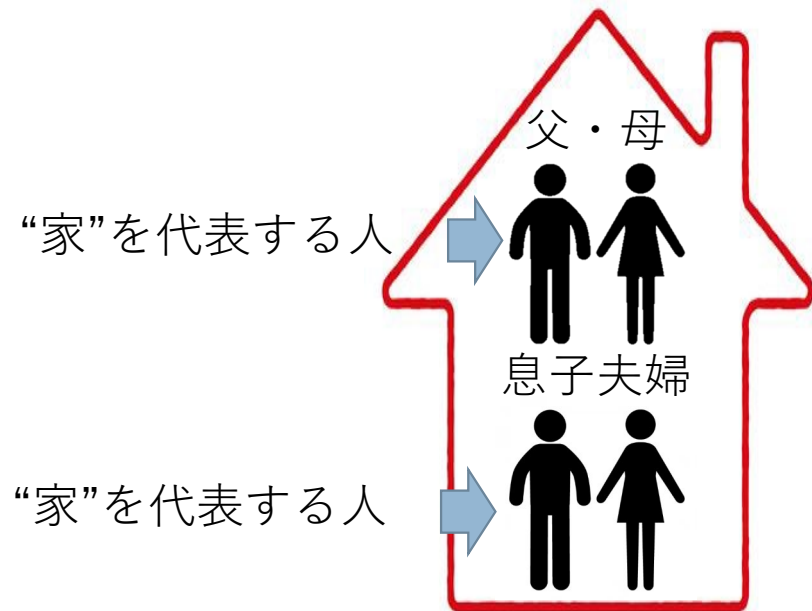
①同じ家に住む有権者なのに、異なる投票所が指定される



2.問題提起①の背景

川南町独特の自治会制度

“帰属意識の希薄化”だけじゃない“自治会未加入者増加”の理由



2つの世帯が“自治会”に
加入していることになり、
役員・負担金などの負担が倍に



結果、どちらかの世帯が
未加入世帯になる

“振興班”という独特な自治組織

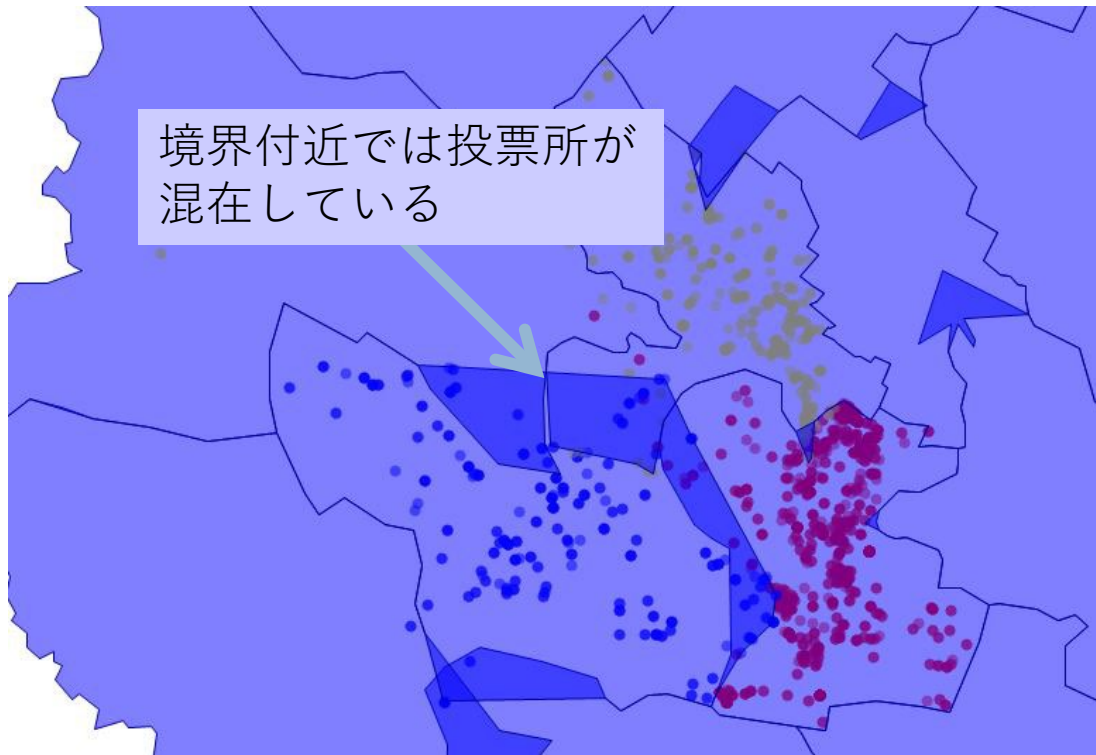
一般的に… “自治会”は、「地縁」
“振興班”は、「人に基づく縁」

背景には開拓地としての
歴史がある。

3.問題提起②

②「人に基づく縁」による混在

現在の振興班加入世帯をプロットし、投票区割を作成

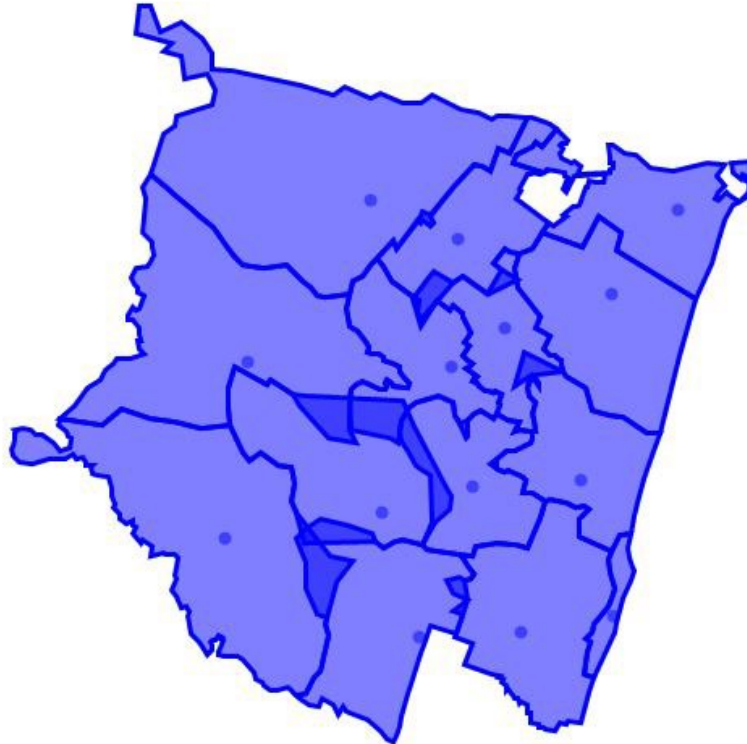


最寄りの投票所が指定されている訳ではない。

4.問題点の整理

今回の課題に取り組む発端を整理する。

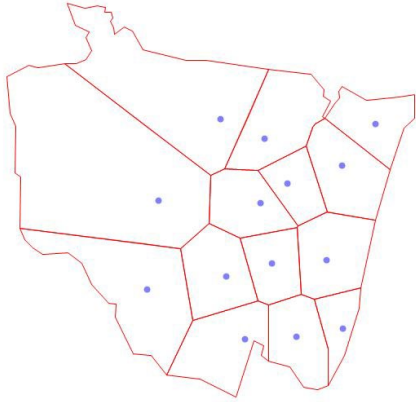
- ①自治会加入・未加入によって指定される投票所が異なる。
- ②自治会加入者が混在しており、最寄りの投票所を指定できていない。
- ③人口、職員数の減少に対応し、投票事務の効率化・最適化を図る。



5.課題解決へのアプローチ

GISと見える化を活用し、現状把握と代替案の検証を行う。

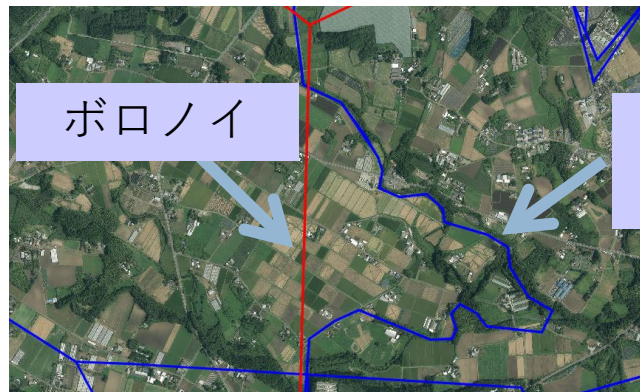
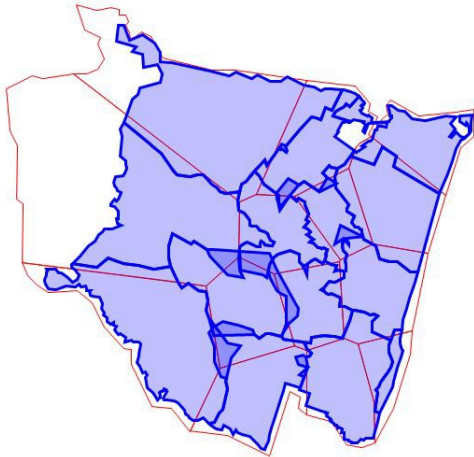
①現投票所からボロノイ図形を作成（庁内GIS→QGIS→庁内GIS）



ボロノイ図とは、平面上に設定された「母点」と呼ばれる複数の座標をもとに、どの母点に最も近いかによって平面の座標空間を分割（＝ボロノイ分割）することで作成される図

投票所を庁内GISにプロット、Shape出力
QGISにてボロノイ図形を作成、Shape出力
庁内GISにて行政界に合せたポリゴン化

②現投票区割とボロノイ図、地物等を基に、投票区割（案）を作成

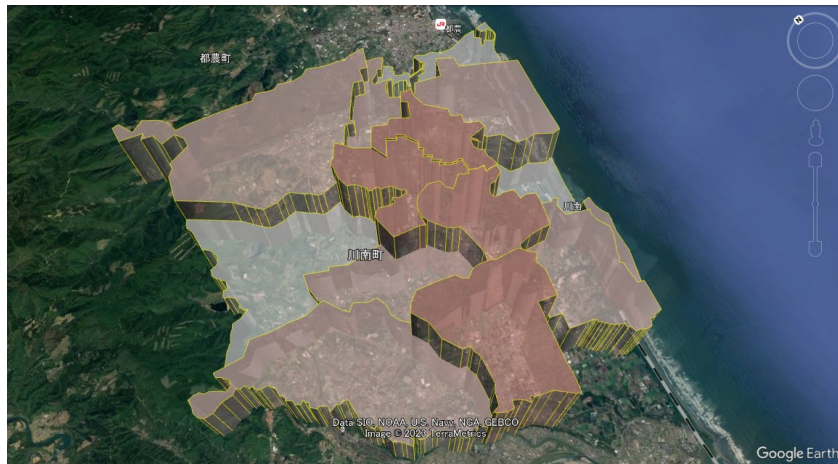


ボロノイ

地物を基に
境界を設定

6. 今後の課題

そもそも…



Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO Image ©2023 TerraMetrics
Google Earth を使用

現在の投票所別有権者数を見える化
(庁内GIS Shape→MANDARA KML化)

※庁内GISから出したShapeファイルの座標系・測地系が分からず苦戦…。

投票区割(案)で有権者数を見える化し、
現況との比較。投票所の廃止を含めた議論に
活用して行きたい。

そもそも…

選挙人名簿が電子化されれば、投票所の指定が不要に。

DXと見える化を掛け合わせて課題解決を。



全国からの入植者が築き上げた、開拓の町。

